令和３年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

健康領域	まちの健康	
基本目標	６	環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち
個別目標	６－１	環境を守り育てる
めざす成果	６－１－１	温室効果ガスの排出量が削減されている
	６－１－２	**ごみの減量・資源化により循環型社会への歩みが進み、清潔なまちが維持されている**
	６－１－３	緑地が保全されるとともに、市街地の緑化も進んでいる
	６－１－４	深呼吸したくなる空気や、きれいな水に囲まれて生活している

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）

めざす成果	施策の展開	取り組み内容	事業名	担当課
6-1-2 ごみの減量・資源化により循環型社会への歩みが進み、清潔なまちが維持されている	6-1-2-1 ごみ排出量の削減を図る	① 市民、事業者のごみの減量化、資源化意識を高める	ごみ処理啓発事業	施設課
			ごみ減量化推進事業	廃棄物対策課
			資源循環型生ごみ処理事業	廃棄物対策課
			家庭系ごみ排出抑制推進事業	廃棄物対策課
			事業系ごみ処理適正負担事業	廃棄物対策課
		ごみの減量、有効利用を実践する家庭、事業所等を増やす	生ごみ処理容器等設置支援事業	廃棄物対策課
			建設リサイクル法の届出事務	建築指導課
		再利用(リユース)を推進する	家具類再生展示施設運営事業	廃棄物対策課
	6-1-2-2 廃棄物の資源化を進める	②③ 資源の適正な回収、処理を進める	焼却灰等有効利用事業	施設課
			環境事業推進員事業	廃棄物対策課
			資源分別回収推進支援事業	廃棄物対策課
	6-1-2-3 排出されたごみを継続的かつ適正に収集、処理、処分する	排出されたごみの収集運搬及び処理施設の管理、運営を適切に進める	環境管理センター建物設備等維持管理事務	施設課
			環境管理センターごみ処理施設維持補修事業	施設課
			環境管理センターごみ処理施設維持管理事務	施設課
			環境管理センター安全衛生推進事業	施設課
			搬入物管理事務	施設課
			直接搬入ごみ受入施設等運営事業	施設課
			可燃ごみ焼却処理事業	施設課
			不燃･粗大ごみ処理事業	施設課
			柳橋ふれあいプラザ管理運営事業	施設課
			塵芥収集事業	廃棄物対策課
			塵芥収集車両等維持管理事務	廃棄物対策課
			塵芥収集車両等整備事業	廃棄物対策課
			犬猫死体収集運搬事業	廃棄物対策課
		焼却灰を、現在及び将来にわたって適正に処分する	一般廃棄物運搬処分事業	施設課
			最終処分場施設維持管理運営事業	施設課
		他市との連携によるごみ処理の効率的なシステムを構築する	ごみ処理広域化事業	廃棄物対策課
	6-1-2-4 ごみの捨てられにくい環境づくりを進める	④ 市民、事業者による地域美化活動の推進を図る	大和市クリーンキャンペーン事業	生活環境保全課
		ごみの不法投棄、散乱を未然に防止する	路上喫煙防止対策事業	生活環境保全課
			不法投棄物未然防止事業	生活環境保全課

所　管　部	環境施設農政部

【成果を計る主な指標】

指標の名称	前期基本計画期間（Ｒ１～Ｒ５年度）				
	計画当初値	実績値（Ｒ１）	実績値（Ｒ２）	中間目標値（Ｒ３）	最終目標値（Ｒ５）
① 市民一人１日あたりのごみ排出量	４２４g	４２４g	４３８g	４２４g	４２４g
② リサイクル率	２７．８％	２８．２％	２９．６％	３３．７％	３３．１％
③ ごみ焼却灰の資源化率	９１．３％	９１．１％	９１．２％	１００．０％	１００．０％
④ 美化推進月間クリーンキャンペーン参加者数	３，８８３人	３，２９５人	１，２２５人	４，３００人	４，５００人

【令和２年度までの主な取り組み内容及び今後の方針】

施策の展開	主な取り組み内容	今後の方針
ごみ排出量の削減を図る	■有料指定ごみ袋の制度により、家庭及び事業所から排出されるごみの減量化や適正負担を図りました。 ■学校給食単独調理校（8校）において、設置した業務用生ごみ処理機を使用し、令和2年度は生ごみ10.8トンを減量すると共に、生成された堆肥1.8トンを協力農家に利用してもらい、収穫された農作物を給食食材として利用しました。 ■ごみの減量化・資源化を図るため、令和2年度は生ごみ処理容器等123基分に対し購入費の一部を助成し、また、啓発用アンケートを市民2,000人を対象に実施しました。 ■これらの取組みから、コロナ禍の影響があったものの、市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は、平成26年度の448ｇから令和2年度は438ｇに減少しました。	■今後も、有料指定ごみ袋の安定供給を実施すると共に、市民や事業者への制度の周知徹底を図ります。 ■学校給食単独調理校における資源化については、生ごみ処理機への投入量や、堆肥利用量が減少していることから、学校や協力農家など関係者の意見も参考に、事業のあり方について見直しを行っていきます。 ■必要に応じ資源化品目の見直し等を検討すると共に、啓発用アンケートの見直しを行うなど、減量化の推進について新たな啓発手法を検討していきます。
廃棄物の資源化を進める	■令和2年度はリサイクルステーション1,377箇所、拠点回収8箇所及び持込み等の資源回収業務の実施により、その他プラ3,241トンを含む13,911トンの資源を回収し、資源化率は29.8％となりました。 ■ごみの焼却処理後に発生する焼却灰を、路盤材等の土木資材源料として資源化処理し、有効利用しました。（R1年度：5,950t　R2年度：6,142t）	■ごみの減量化・資源化の推進及び資源の分け方・出し方のマナー向上を図るため、引き続き市民への啓発を図ります。また、リサイクルステーションの管理体制を維持するため、自治会等と連携しながら地域の実情に即した支援等を行っていきます。 ■資源回収業務を行う施設の整備を行っていきます。 ■焼却灰の全量資源化に向けて、資源化量を拡大していきます。
排出されたごみを継続的かつ適正に収集、処理、処分する	■本市としての将来的な施設整備の在り方を踏まえ、効率的かつ安全・安定的なごみ処理体制を確立するため、令和2年度は大和高座ブロックや国・県が開催する広域化に関する会議等に7回参加しました。 ■「環境管理センターごみ処理施設維持補修計画」に基づき、焼却棟及び粗大棟設備の維持補修を実施するとともに、焼却処理施設を安定的かつ長期的に使用していくため、令和2年度から5年度にかけて延命化工事を進めています。	■廃棄物処理に関する国の動向に注視しながら、本市としての将来的な施設整備の在り方を踏まえ、効率的かつ安全・安定的なごみ処理体制を確立するため、広域処理について検討していきます。 ■必要に応じ関連する計画を改定すると共に、災害発生時に廃棄物処理の対応ができるよう、地域間における相互応援体制の構築等について検討を進めていきます。 ■ごみ処理施設を安全で安定的に運転していくため、計画的な維持補修を実施していきます。
ごみの捨てられにくい環境づくりを進める	■地域の方々によって地域美化を図るため、美化推進月間などにおけるクリーンキャンペーンを、年間を通して実施しました。 ＜美化推進月間クリーンキャンペーンの実績＞ 参加団体数：(R1年度)210団体、(R2年度)68団体 参加人数：(R1年度)3,295人、(R2年度)1,225人 ■地域環境の見守り活動である環境サポーターについて、56人の登録がありました。	■クリーンキャンペーンについて、広報紙・チラシの配布など、より多くの方々に参加してもらえるような周知活動を行います。 ■環境サポーター活動に多くの方が参加してもらえるよう周知活動を行います。